

附属幼稚園だより 第10号

令和4年12月22日発行 文責:室野亜津子

「したい 知りたい やってみよう」
がっぱいの幼稚園

楽しかったほしの子まつり



「あー楽しかった!」「楽しすぎたー」という子どもたちの声が聞こえてきました。保護者のアイデアは素晴らしく、また、手が込んでいて、子どもの心をつかんでいました。準備が大変だったと思いますが、準備するうちに「あれもしたい。これもしたい。」とどんどんアイデアがわいてきたようです。育友会がとったアンケート結果を見てみると、実際に準備や当日のお世話に関わってくださった方々は、またしてあげたい、協力したいという思いをもっていらっしゃって、大変ありがたく思いました。

厚生部さんの綿密な計画や下準備があってこそその大成功。本当にありがとうございました。子どもたちにとって大切な幼稚園の思い出が一つ増えました。

グループ懇談会より

グループ懇談会の話題について、幼稚園の考えも知りたいとリクエストがありました。どの話題も、難しい問題で、正解はありませんので、「そんな考えもあるのか。」ぐらいに受け止めてください。

<子どもの好きなことを伸ばすためにできることは?>

まず、好きなことが見つかるという第1段階。子どもは経験の中になら選択肢がありませんから、様々な経験を通して、世界を広げてあげることが親にできることでしょうか。ここでいう「経験」は「体験」だけを言うのではなく、「見る」「本で知る」なども含みます。

好きなことが見つかったら第2段階。お金と時間と労力と相談しながら、可能な範囲で応援してあげたいですね。好きなことに集中しているときは、あえて声をかけずに見守る、タイミングを見計らって良さをほめる、感心する。これは保育の中でも心がけていることです。

<幼稚園に行きたくない!と言われたらどうするか>

できるだけ何とか連れてきてほしいですね。行きたくない理由はそれぞれあるのですが、子どもが理由として言葉にしたことが、必ずしも真実ではないこともあります。子どもも自分ではっきりした理由は分からないことはままあります。

それより、幼稚園に来て「ああ、楽しかった。」を重ねることが大事です。私のこれまでの経験では、登園時ずっと泣いていた子どもが、進級と同時に泣かなくなったというケースもありました。進級したという自覚が、何かを変えたのでしょうか。

今でも朝から玄関で泣いている子どもはいますが、母親と離れてしまえば泣き止んで、遊んでいます。「幼稚園に行きたくない！」には「幼稚園は行くものよ。」と揺るぎのない返事をした方がいいように思います。「行きたくないときは休める」という経験が小学校以降の不登校の芽にならないように。

<子どもの悩みにどのように対応しているか>

まず、悩みをゆっくり聞いてあげることが大事ですね。ジャッジをせずに、気持ちを十分に言わせる。そして、共感する。「そうかあ。それは嫌だったね。」「それは、困ったね。」など。

次は、「どうしたいの?」「どうすればいいかな。」と子どもの気持ちを優先しながら一緒に考える。話すだけですっきりすることや、「明日自分で言うてみる!」と気持ちが前向きになることもありますね。たくましく生きていく力をつけるには、できるだけ大人が介入せずに解決できる方がいいですね。

しかし、それだけでは難しいこともあります。そんなときは、どうぞ、幼稚園に相談してください。担任、園長、教頭、養護教諭。いつでもご相談ください。子育て相談はいつでも受け付けています。

1月行事予定

- 10 (火) 年明けの会
- 12 (木) 弁当開始日
年長児は入試のためお休み
- 13 (金) 観劇会「ぶんぶく茶釜」
- 16 (月) 留学生との交流 19日 (木) まで4日間
- 17 (火) リカレント研修
- 23 (月) リカレント研修
- 31 (火) リカレント研修

※留学生との交流

グローバル社会を生きる子どもたちに、外国の方と接する機会をつくり、異文化を知る経験をさせたいと思い、留学生を招くことにしました。

- 16日 アリフさん (インドネシア)
- 17日 シャフさん (パキスタン・イスラム共和国)
- 18日 エマニュエルさん (ナイジェリア)
- 19日 ファンさん (台湾)

1回目は、子どもたちと顔合わせをし、一緒に遊んでもらいます。これから、時々遊びに来てもらう予定です。



保護者の皆様から毎月いただいている教育後援会の資金で、滑り台を新しく購入しました。ありがとうございました。

学校評価アンケートのご意見を生かし、園内の植物に名札を付けました。いいアイデアをありがとうございました。